

令和 5 年度 学校推薦型選抜 本試験問題

出題意図・模範解答・採点基準

問題 1 出題意図

アドミッションポリシーとの関連

- ① 専門職に関心を持ち、必要な科学的知識・技術の習得及び探求に意欲のある
- ② 高い専門的知識・技術の習得に必要な基礎的学力を備えている
- 3. 他者とよい人間関係を作るためのコミュニケーション能力を備えているもの
- 4. 常に社会の変化に関心を持ち、専門職として社会に貢献する意欲のある者
- 5. 多様な価値観を尊重できる者
- ⑥ 論理的に思考し表現・行動できる者

出題意図

国民の健康の維持は医療従事者であれば、だれもが関心をもつべき事項です。厚生労働省の指針はこの国が国民の健康に向けて何に目を向けていくべきかを明確にしています。一方、大量の医療情報を誰もが簡単に手に入れられる時代となりました。

そこで、多くの情報の中から真に必要なものを抽出できる力（読み取り力）、さらにそれをわかりやすく他者に伝える力（表現力）をみていきたいと思っております（アドミッションポリシー②、⑥）。

着眼点

- ① 時系列で内容を整理できる。
- ② 6つの項目に共通する4つの内容を確実に抽出できる。
- ③ 必要項目を正確に記述できる。

問題1 模範解答 表

改善項目	具体的目標	策定年度数値	中間評価	最終年度(2023 年度) 目標
栄養・食生活	食塩摂取量の減少	実質平均摂取量 10.6 g	9.9 g	8.0 g
身体活動・運動	20～60 歳の日常生活での歩数の増加	実質平均歩数 男性 7,841 歩、女性 6,883 歩	男性 7,769 歩 女性 6,770 歩	男性 9,000 歩、女性 8,500 歩
休養	週労働時間60時間以上の雇用者の割合の減少	実質平均割合 9.3 %	7.7 %	5.0 %
飲酒	生活習慣病のリスクを高める量（1日当たり純アルコール摂取量 男性 40 g、女性 20 g 以上）の飲酒者割合の減少	実質飲酒者割合 男性 15.3 %, 女性 7.5 %	男性 14.6 %, 女性 9.1 %	男性 13.0 %, 女性 6.4 %
喫煙率	成人の喫煙率の減少	19.5 %	18.3 %	12.0 %
歯・口腔の健康	80 歳で 20 歯以上の歯を有する者の割合の増加	25.0 %	51.0 %	60.0 %

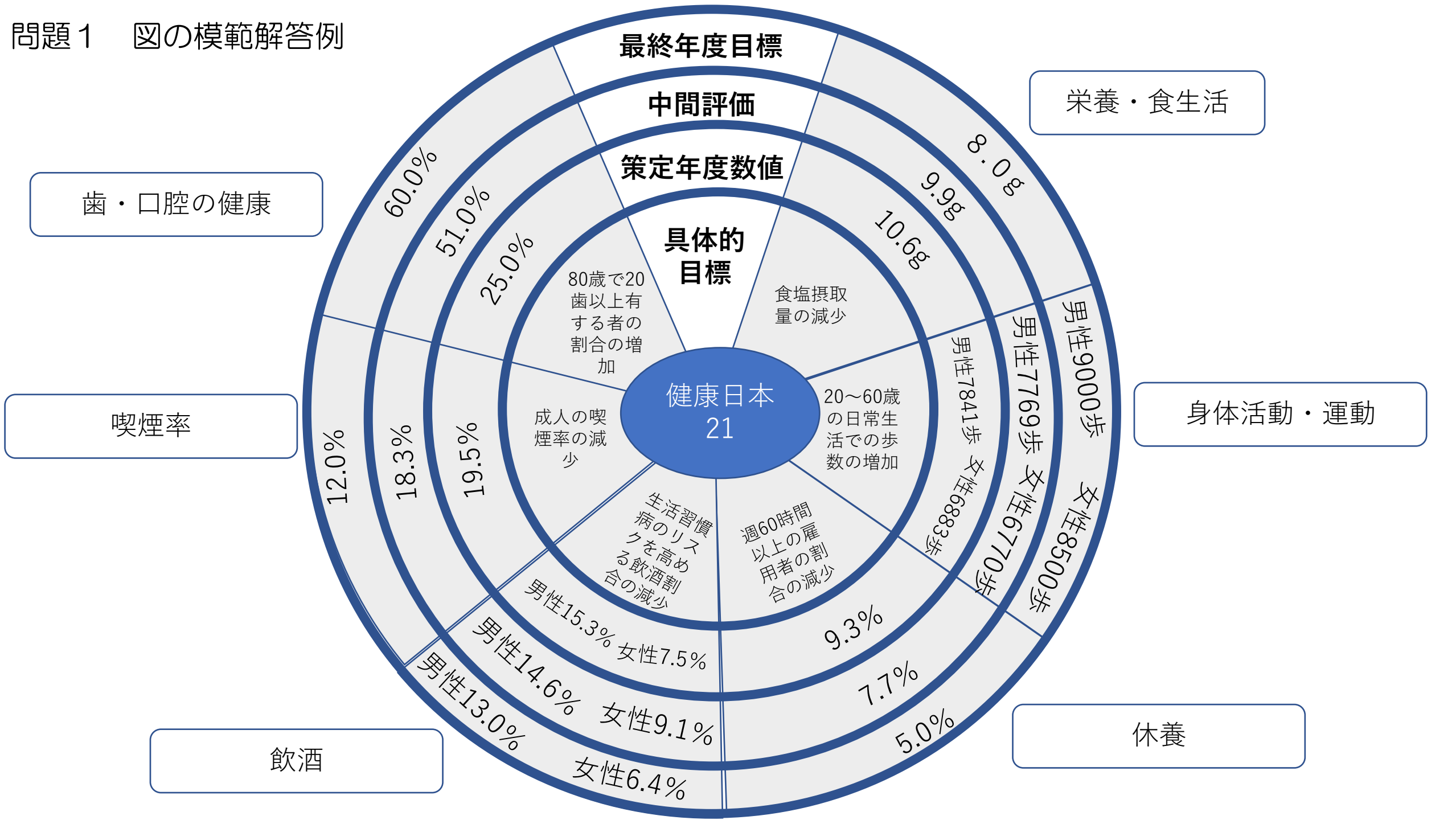
6つの改善項目と4つの内容を表の項目として入れる。

1マス 2.5点として、算出する。 $2.5 \times 24 = 60$ 点

これ以外の表記は配点には含めない。

また、数値の間違ひは誤答とみなす。図も同様の配点とする。

問題1 図の模範解答例



問題2 アドミッションポリシーとの関連

- ①. 専門職に関心を持ち、必要な科学的知識・技術の習得および探求に意欲のある者
2. 高い専門的知識・技能の習得に必要な基礎的学力を備えている者
3. 他者とよい人間関係を作るためのコミュニケーション能力を備えている者
- ④. 常に社会の変化に関心を持ち、専門職として社会に貢献する意欲のある者
5. 多様な価値観を尊重できる者
- ⑥. 論理的に思考し表現・行動できる者

作題意図

人の健康および社会的に話題となっている問題を取り上げることで、専門職や社会の変化に関心があるかを問う。また、起こっている事象の理由とその問題を解決するための方策を自分の考えで論理的に記述することができるかを問う。

着眼点

- 1) ランドセル症候群について説明文を含めて正しく理解できる。
- 2) ランドセル症候群の具体的な解決策を理由とともに的確に提案することができる。
- 3) 物事を多角的に捉えることができ、自分の考えを論理的に述べることができる。

採点基準 70 点

- 1) 課題の理解（正しく理解しているか、理由に対する対策を述べているか）：18 点
- 2) 説得力（課題を解決する施策を導いているか、記述内容に矛盾はないか）：30 点
- 3) 構成力（筋道を立てて論理的に説明しているか）：12 点
- 4) 文章力（文章の体裁、誤字脱字）：10 点

問題2 採点基準 小項目

1) 課題の理解 18点満点 (正しく理解しているか、理由に対する対策を述べているか)

[設問の正しい理解]

[具体的な解決策とその理由]

- A : 18点 課題に沿って記述している。具体的な解決策とその理由を述べている。
B : 12点 課題に沿って記述している。理由と解決策は述べているが抽象的である。
C : 6点 課題に沿った記述とはいえない。解決策または理由を述べていない。
D : 0点 課題に沿った記述とはいえない。解決策および理由を述べていない。

2) 説得力 30点満点 (課題に対する解決策を導いているか、記述内容に矛盾はないか)

[内容的的確性]

[多角的な視点]

- A : 30点 解決策と理由の内容が的確である。多角的な視点で考えており矛盾がない。
B : 20点 解決策と理由の内容が概ね的確である。多角的な視点は乏しいが矛盾はない。
C : 10点 解決策と理由の内容がズレている。近視眼的な考えでやや矛盾している。
D : 0点 解決策と理由の内容が的外れである。近視眼的な考えで明らかに矛盾点がある。

3) 構成力 12点満点 (筋道を立てて論理的に説明しているか)

[構成が適切]

[論理的一貫性]

- A : 12点 内容的構成が適切で自然な順序である。一貫性がありわかりやすい。
B : 8点 内容的構成は明確に示している。論理的だが一貫性に欠ける。
C : 4点 内容的構成が明確でない。前後関係が不十分で脈絡が無い。
D : 0点 文章が構成されていない。前後関係や論理性が無い。

4) 文章力 10点満点 (文章の体裁、誤字脱字)

[段落の設定、句読点の付け方、諸語と述語の対応、文体の統一、誤字脱字]

- A : 10点 適切な体裁であり、読んでいて違和感がない。
B : 7点 体裁に問題は無いが、読んでいて違和感がある。
C : 4点 適切な体裁になっていない箇所が1、2点ある。読んでいて違和感がある。
D : 0点 適切な体裁になっていない箇所が3点以上ある。読み進めるのが困難。

問題2 回答例

ランドセル症候群が生じる理由として、年々通学時の荷物が重くなっていることが挙げられる。背景には教科書やプリントの大型化、副教材の増加、タブレット端末の活用、通年で水筒を持参するなどがある。

背負う荷物が重いことへの対策として、家庭学習で使用予定のない教材等は机や棚に置いて帰る（置き勉強）、デジタル教科書を活用する、軽いランドセルにする、ランドセルを背負わずキャリー付きの運搬具を利用するなどが挙げられる。

重さを感じさせないためには、荷物の入れ方を工夫する。例えば、重いものは背中に近く、上に入れる、左右バランスよく詰める、荷物が揺れないように隙間を埋めるなどがある。また、運動により腹筋や背筋、足の筋肉を鍛え、体力がつくことにより、同じランドセルの重量でも重く感じにくくなり、疲労感の減少につながると考える。

ランドセルが身体に適合していないことへの対策として、ランドセルの肩ベルトを常に身体状況に合わせて調節する、チェストベルトを利用し肩だけでなく胸全体で重さを支える、カバンの種類を変えるなどが挙げられる。

通学することが精神的負担になっている場合は、その原因を調べて上記のような対応によりストレスを取り除くとともに、通学前後に肩や腰のストレッチをして痛みが生じる前に予防することで、憂うつな気持ちを軽減できると考える。

このような対策を講じることで、ランドセル症候群の解決に役立つと考える。

594 文字